

E-41 国民健康保険における負担と給付の実態

お茶の水女大家政 鬼頭由美子

目的 高齢化社会の到来とともに国民総医療費の増大が大きな問題となっているが、わが国では国民皆保険の下に家計における医療費の実態は非常に把握しにくくなっている。本研究の目的は、この家計における医療費の実態を把握するとともに国民健康保険の負担と給付の対応関係を家庭経済の立場に立って、世帯単位に捉え解明することである。

対象 若手県二戸郡一戸町の純国保世帯、493世帯。

資料 ①国民健康保険の診療報酬明細書（レセプト）②国保税課税台帳……ともに昭和51年度分。

方法 給付として世帯総診療費（資料①）負担として各世帯保険税（資料②）を把握した。以上より『受益率 R 』=給付/負担=世帯総診療費/（保険税+一部負担），『受益額 S 』=給付-負担=世帯総診療費-（保険税+一部負担）を算出し、負担と給付の関係をみる指標とした。この2つを地理的条件，所得階層，世帯規模，特別給付受給状況を柱に分析を試みた。さらに R 、 S の高位，中位，低位の各50世帯についてその特徴，要因を考察した。

結果 受益率，受益額は地理的条件の差により影響を受けるが，所得，世帯規模とは有意な相関はみられなかった。しかし特別給付の受給状況によって著しい差がみられ，特別給付の有無が受診に大きく影響を及ぼしていることが推測された。

今後の課題として，地理的条件をどう補うかという医療供給の問題，特別給付受給者についての制度の問題が重要と思われる。